2017年7月12日
上毛新聞「元気らいふ」に掲載

困っていませんか？

「検尿で陽性(+)」

腎臓病を早期発見

「健康診断の検尿で引っ掛かった」「タンパク尿が出ていると指摘された」という人はいませんか？ 尿は体の健康状態を示す重要なサインです。腎臓は血液中から不要な水分や老廃物をこして尿を生成する役割があります。何らかの原因で機能が障害されると尿にタンパクが漏れ出すことがあります。

腎臓が悪いと「尿が出にくくなる」「顔や手足がむくむ」などの自覚症状が出ることが知られていますが、発病しても自覚症状を伴わない腎臓病も実は数多く存在します。知らぬ間に進行し、腎機能が悪くなると元の状態に戻すことはなかなか難しくなります。

検尿は腎臓病を早期発見するための大切な検査です。繰り返しタンパク尿が出ているようであれば、病気が隠れている可能性が高くなります。精密検査やきちんとした治療が必要になる場合があるので、尿検査の結果が陽性(プラス)(+)になるなど異常を指摘されたら、放置せずに医療機関で相談してほしいと思います。

済生会前橋病院腎臓リウマチ内科
三島　敬一郎

協力／県医師会